

原稿の書き方

1. 投稿原稿のカテゴリー

掲載する論文等は、以下のカテゴリーのものとする。

総説 (Review) とは、特定の研究分野に関する主要な文献の総覧とし、その記述は、単なる事実等の羅列ではなく、特定の視点に基づく体系的なまとまりをもつものとする。

本論文 (Full paper) とは、水産学や水産大学校の人材育成に関するオリジナルな研究についての論文とする。

短報 (Short paper) とは、本論文としてはまとまらないが、限られた部分に関する重要な発見や新しい実験方法などを発表するものとする。

調査報告 (Report) とは、水産学や水産大学校の人材育成に関する調査結果や、既存の技術、機器、装置、薬剤等に関する特性の評価を取りまとめたもの等で、今後の研究に価値のあるものとする。

情報 (Information) とは、学術交流会、学会及び研究集会等の紹介、新しい研究開発の内容や研究プロジェクトの紹介、研究開発の動向、知財及び開発機器等を公表するものとする。

書評 (Book review) とは、書籍に対する評価を含んだものとする。

論文紹介 (Paper introduction) とは、科学雑誌に掲載された英文論文を簡潔に取りまとめたものとする。

招待論文 (Invited paper) とは、招待を研究成果委員会が承認した総説や本論文等とする。

2. 原稿

原稿は、コンピューターソフトまたはワードプロセッサを使用し、A4縦判、横書きにして、活字は12ポイント程度、1ページ27行程度で作成する。各ページの周囲には30mm程度の余白を設け、ページ番号と行番号を付ける。原稿の提出は、事務局（水産大学校校務部業務推進課）へMicrosoft Wordで作成したファイルをメール添付する。図と表もMicrosoft Wordのデータ内に貼り付けて提出する。紙媒体での提出も可とする。

(1) 総説、本論文、短報、調査報告、招待論文

a) 和文原稿

第1ページ: 原稿の種類、ランニングタイトル、表題、著者名、英文表題、英文著者名、所属（括弧内に英文）、学生の場合は学科名なども記入する。必要に応じて住所を記しても良い（括弧内に英文）。ただし、著者が水産大学校に所属する場合は住所を記入しない。また、共著のときはダガー（†）により責任著者を、メールアドレスを付して示す。

第2ページ: 英文要旨、英文キーワード。

第3ページ以降: 本文、図の説明（英文）、図、表（英文）の順に記す。原則として脚注を使わない。

最終ページ: 和文表題、和文著者名、和文要旨。

b) 英文原稿

第 1 ページ: 原稿の種類 (英文), 英文ランニングタイトル, 英文表題, 英文著者名, 英文所属, 学生の場合は学科名を記入する。必要に応じて住所を記しても良い。ただし, 著者が水産大学校に所属する場合は住所を記入しない。また, 共著のときはダガー (†) により責任著者を, メールアドレスを付して示す。

第 2 ページ: 英文要旨, 英文キーワード。

第 3 ページ以降: 本文, 図の説明, 図, 表の順に記す。原則として脚注を使わない。

最終 ページ: 和文表題, 和文著者名, 和文要旨。

(2) 情報

表題, 英文表題, 本文, 著者名, 英文著者名, 所属, 英文所属 (学生の場合は学科名なども記入)。

(3) 書評

書名, 著者名, 出版年, 出版社, 価格, ISBN 番号, 本文, 評者名, 所属 (学生の場合は学科名なども記入)。

(4) 論文紹介

論文名, 著者名, 掲載雑誌の詳細 (雑誌名, 巻, 号, 頁, 発行年), 本文, 紹介者名, 所属 (学生の場合は学科名なども記入)。

3. 原稿の種類

本文第 1 ページ最上行に記載する。

4. ランニングタイトル

和文原稿では 20 字以内, 英文原稿では語間の空白分を含めて 50 字以内とし, 本文第 1 ページ第 2 行に記載する。

5. 表題

表題は簡潔に論文の内容を表すようなものにする。原則として副題や継続論文であることを示す番号のついた表題などはつけない。

6. 著者名, 著者情報

連名のときはコンマ「,」で連ねる。ただし, 英文では姓及び名のそれぞれの頭文字をキャピタル, 後をスモールとし, 2 名の場合は「and」で, 3 名以上連名のときは最後の著者名は「and」でつなぐ。著者名の所属が複数ある場合, 著者名の右肩に番号をつけ, 所属を指示する。責任著者はダガーで指示する。

例) 和文原稿

原稿の種類: 本論文

ランニングタイトル: アルテミアのゲルマニウム代謝

アルテミアによるゲルマニウムの吸収と代謝

山川一郎¹, 太田次郎^{2†}, 山下三郎³, 水産 学⁴

Germanium uptake and metabolism by *Artemia salina*

Ichiro Yamakawa¹, Jiro Ota^{2†}, Saburo Yamashita³ and Manabu Suisan⁴

¹水産大学校水産学研究科学生 (Student of Graduate School of Fisheries Science, National Fisheries University)

²水産大学校食品科学科 (Department of Food Science and Technology, National Fisheries University)

³水産大学校食品科学科学生 (Student of Department of Food Science and Technology National Fisheries University)

⁴水大校技術開発株式会社 〒759-6595 下関市永田本町2-7-1 (Suidaikou Engineering Consultants, Inc, 2-7-1 Nagata-honmachi, Shimonoseki, 759-6595, Japan)

† 責任著者 (corresponding author): *****@fish-u.ac.jp

例) 英文原稿

Manuscript type: Full paper

Running title: Germanium metabolism of *Artemia*

Germanium uptake and metabolism by *Artemia salina*

Ichiro Yamakawa¹, Jiro Ota^{2†}, Saburo Yamashita³ and Manabu Suisan⁴

¹Student of Graduate School of Fisheries Science, National Fisheries University

²Department of Food Science and Technology, National Fisheries University

³Student of Department of Food Science and Technology, National Fisheries University

⁴Suidaikou Engineering Consultants, Inc, 2-7-1 Nagata-honmachi, Shimonoseki, 759-6595, Japan

†Corresponding author: *****@fish-u.ac.jp

7. 英文要旨, キーワード

本文と別ページにし, 研究目的, 方法, 結果, 考察, 結論をできるだけ簡潔な英文で, 改行しないで200語程度 (1枚以内) にまとめる。要旨は本文と独立に理解できなければならないので, 図表, 文献等の引用をしない。要旨の下に1行あけて4~6語の英文キーワードを記入する。

8. 本文

本文の記述は原則としてポイントシステムとはせず, 緒言 (英文原稿の場合Introduction), 材料と方法 (Materials and Methods), 結果 (Results), 考察 (Discussion), 結果および考察 (Results and Discussion), 謝辞 (Acknowledgement), 引用文献 (References) などの見出しをボールド, センタリングでつける。小見出しが必要な場合は, ボールド, 左寄せとする。それぞれのセクション間は1行あける。括弧は半角とする。前括弧“(”の前と後括弧“)”の後は半角あけるが, 後括弧に句読点や文献番号などが付

く場合は半角あけない。和文原稿、英文原稿ともにコロン“:”とセミコロン“;”は半角で記し、その後は半角あける。句点は、和文原稿では“。”（全角）を、英文原稿では“.”を使用する。読点は、ともに“,”（和文原稿では全角）を使用する。ただし、和文原稿においても引用文献の項では句読点は半角にする。

9. 謝辞

科学研究費補助金等の学内外の競争的資金を使用した場合や、受託研究及び契約に基づく共同研究等の場合は、その旨も謝辞に記載する。

10. 図と表

表題、説明、内容を英文で書く。図表番号はボールドとし、“**Table 1.**”、“**Fig. 2.**”などのように書く。表は横線のみを必要最小限用いて作成する。表の上に簡潔な表題をつけ、末尾にはピリオドをつけない。表に付属する説明や注は表の下に書く（末尾にはピリオドをつける）。表が複数ある場合でも原稿1ページに記す表は1つとする。図の説明は図の原稿と別葉（別ページ）にする（説明文の末尾にはピリオドをつける）。図の原稿に図の説明文を書かない。図が複数ある場合でも原稿1ページに記す図は1つとする。図と表の原稿は本文と別葉（別ページ）にし、その挿入箇所を本文原稿の右欄外に赤で指定する。原則として、同じ内容のものを図と表の両方で表すことはやめ、どちらか一方にする。図版（Plate）は用いない。図の原稿は、大きさをA4判までとし、必要により図の元版を提出する場合は、厚手の台紙に貼り、原稿が汚れないように薄紙でカバーする。刷り上がりの図表の大きさは横幅が7.5 または15 cm程度となるので、図表の原稿に刷り上がりの大きさを指示すること。なお、受理後は印刷のため、原則として表はMicrosoft WordまたはExcel、図はPNGまたはJPEGで作成した元のデータを事務局へ提出する。Microsoft PowerPointなどで作成した図は、印刷原稿作成時に崩れることを防ぐため前文に示した形式へ変換して提出する。

11. 文献

本文の関連箇所に引用の順に、“うわつき”で“*Young*^{2,3)}”または“*Young*²⁻⁵⁾”のように一連番号をつけ、著者が複数の場合、2名までは姓を連記し（小林・品川¹⁾あるいはShinagawa and Kawasaki²⁾）とし、3名以上の場合は筆頭著者の姓に“ら³⁾”あるいは“et al.⁴⁾”を付して記載する。句読点の箇所に引用番号をつける場合は、句読点の前に置く。

雑誌名は略記しない。欧文雑誌名はイタリックで記す。水産大学校研究報告は英文では*Journal of National Fisheries University*とする。同じ雑誌がならぶときは同誌（*ibid.*）と略してはならない。巻番号はボールドにする。号番号が必要な場合は括弧内でボールドにする。巻や号を通したページ番号がなく、論文番号がある文献についてはその番号を記す。ただし、番号が短くページ番号と混同される恐れがある場合には、番号の前に“article”と記す。和文原稿における出版地は市町村名を基本とし（“市”，“町”，“村”は略す）、東京都特別区は“東京”と記す。英文とは異なる言語で書かれた引用文献については、必要に応じ英文引用文献の書き方に準じたその英訳を括弧“[]”内に示しても良い。DOIを引用文献に付しても良い。

例) 雑誌の場合

- 1) 小林政志, 品川五郎, 川崎太郎: 水産機器の強度設計に関する研究. 海洋機械, **18**, 25-35 (2005)
- 2) Kobayashi M, Shinagawa G, Kawasaki T: Strength of materials used in fisheries machine. *Journal of Fisheries Machinery*, **28(2)**, 1258-1267 (2005)

- 3) Sakai M: Cancer in fish. *Aquaculture Pathology*, **52**, 53-56 (2017): <https://doi.org/> . . .

例) 単行本の場合

- 1) 小林政志: 水産環境の浄化技術. 水産大出版会, 下関 (2002)
- 2) Kobayashi M, Yamasaki A: Design of Fisheries Machinery. Suisandai Press, Shimonoseki (2005)
- 3) 小林政志, 山崎明弘: 水産機械の設計. 海野五郎 (編) 機械工学事典. 水産出版会, 東京, 20-50 (2005)
- 4) Kawasaki A, Kimura M: Corrosion of Stainless in Sea Water. *In*: Seaworle A, Kawasaki A (eds) Handbook of Corrosion. Academic Press, New York, 410-419 (2005)

例) 訳書の場合

- 1) Sokal RR, Rohlf FJ: 生物統計学 (藤井宏一訳). 共立出版株式会社, 東京 (1983): Introduction to Biostatistics. W. H. Freeman and Company, San Francisco and London (1973)

例) インターネット上の情報の場合

- 1) 農林水産省: 令和5年漁業・養殖業生産統計 (2024): <https://www.> . . . (2024年 5月27日閲覧)
- 2) PubChem Compound Database: Orange-G: <https://pubchem.> . . . (accessed on 8 January 2023)

1 2. 用語

原則として“学術用語集”(文部科学省)及び“英和・和英水産学用語事典”(恒星社厚生閣)に準拠する。

生物名については, 和文原稿では標準和名をカタカナで書き, 続けて学名をイタリックで入れる。ただし, いわし・鰯・かつお節などのような場合はカタカナを用いない。英文原稿では可能であれば英名を記し, 次に学名を入れる。微生物名などはそのまま学名を用いる。原則として命名者を省くが, 特に必要のある場合は命名者をローマンで入れる。この場合は, 命名者名を略記してはならない。また, 属名や種名を最初から略記してはならない。本文中で学名の表示を必要以上に重複することは避ける。文頭における属名は略記しない。

和文原稿中の外来語は, 原則としてカタカナとする。原語を用いる場合, 人名, 地名, ドイツ語の名詞, 固有の商品名などを除きスモールで記載する。同一論文で同一物名については和洋語を混用してはならない。英文中の日本語はローマ字表記でイタリックとする。

1 3. 単位及び記号

単位の記載についてはSI 単位 {“物理化学で用いられる量・単位・記号”(日本化学会標準化専門委員会監修, 講談社), “国際文書第9版国際単位系(SI)日本語版”(独)産業技術総合研究所 軽量標準総合センター 訳・監修)などを参照}を尊重する。物理量記号はイタリック, 単位記号はローマンを標準とする。略記するものについては複数でも s をつけない。その他各種の記号を用いるときには明確な説明をつける。分数を含む数式は2行取りとする。変数, パラメータ, 統計量などを表す記号はイタリックとする。なお, P値の“P”は大文字イタリックとする。

数学記号 (=, >, <, ≥, ≤, +, -, ± など)の前後は半角あける。

化学関係の記号は次例のように字体を区別する。

イタリックとするもの: *o*-, *m*-, *p*-, *N*-, *O*-, *S*-, *n*-, *s*-, *prim*-, *sec*-, *tert*-, *cis*-, *trans*-

ローマンとするもの: pH, Rf, ^{14}C , Ag^+ , Ca^{2+} , bis-, iso-, homo-

スモールキャピタルとするもの: D-, L-, DL-

1 4. 印刷上の指示

誤読, 誤植の恐れがある場合は, 原稿に赤で適切な指示を加える必要がある。

付記 特別な事情により, この原稿の書き方と異なる様式で執筆された論文については, 著者の申し出に基づき, 研究成果委員会で協議して, その様式を認めることがある。